

厚生労働省医薬・生活衛生局
血液製剤使用適正化方策調査研究事業

長野県輸血療法部会による血液製剤使用の
適正化及び輸血教育・研究の推進

平成 30 年度 総合研究報告書

研究代表者 柳沢 龍
(長野県献血推進協議会輸血療法部会)

平成 31 年 (2019 年) 3 月

厚生労働省医薬・生活衛生局
平成30年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業
研究報告書

研究課題

長野県輸血療法部会による医療機関評価体制の導入による

血液製剤使用の適正化および輸血教育・研究の推進

委員会名 長野県献血推進協議会輸血療法部会
主任研究者 柳沢 龍 長野県献血推進協議会輸血療法部会長
信州大学医学部附属病院輸血部 副部長

研究要旨

長野県では、献血制度の普及を図るとともに献血制度の適正な運営を確保するため、「長野県献血推進協議会（昭和39年設置 会長：長野県知事）」を設置しており、平成22年度にはこの協議会の中にさらに「輸血療法部会」（事務局：長野県健康福祉部薬事管理課，長野県赤十字血液センター）を設置した。輸血療法部会は長野県における合同輸血療法委員会の中核組織と位置づけられ、長野県内における血液製剤の安全かつ適正な使用を推進し、輸血療法の向上を図ることを設置の目的としており、血液製剤使用量の多い県内13の医療機関と長野県赤十字血液センター，長野県健康福祉部薬事管理課より関係者が委員として参加している。これまでに、長野県内で輸血療法を実施した医療機関に対し輸血用血液製剤及び血漿分画製剤の使用状況実態調査や当該結果を踏まえた検討会及び講演会の開催を実施してきた。今後の取り組みとして、県内の輸血療法の更なる改善および発展性を考慮して、長野県の地域特性に即した輸血療法の実施を研究課題として掲げ、下記の通りの研究内容を実施したため報告する。

A. 研究組織の概要

長野県では、献血制度の普及を図るとともに献血制度の適正な運営を確保するため、「長野県献血推進協議会（昭和39年設置 会長：長野県知事）」を設置しているが、平成22年度にこの協議会の中に「輸血療法部会」（事務局：長野県健康福祉部薬事管理課，長野県赤十字血液

センター）を設置した。輸血療法部会は長野県における合同輸血療法委員会の中核組織と位置づけられ、長野県内における血液製剤の安全かつ適正な使用を推進し、輸血療法の向上を図ることを設置の目的としており、血液製剤使用量の多い県内13の医療機関と長野県赤十字血液センター，長野県健康福祉部薬事管理課よ

り関係者が委員として参画している。また、平成26年度、輸血現場に最も近い看護師の立場から輸血療法に関わる実践の標準化及び啓発活動を推進するために、看護師専門委員会を設置し活動を開始した。さらに、平成27年度には、輸血検査及び技術の向上を目的とし、認定輸血検査技師専門委員会を設置した。

これまでに、長野県内で輸血を実施した医療機関に対し輸血用血液製剤及び血漿分画製剤（以下「輸血用血液製剤等」という）の使用状況実態調査や当該結果を踏まえた検討会及び講演会を例年開催してきた。さらに平成27年度は「輸血に関わる地域包括ケアに向けた長野県輸血療法部会としての役割と活動」、平成28年度は「地域特性に即した輸血療法に対する長野県輸血療法部会としての取り組み」をそれぞれ血液製剤使用適正化方策調査研究事業の助成を受け実施した。これらの研究実績に基づき平成30年度は「長野県輸血療法部会による医療機関評価体制の導入による血液製剤使用の適正化および輸血教育・研究の推進」を研究課題として掲げ、下記の通りの研究内容を実施したため報告する。

B. 長野県輸血療法部会による医療機関評価体制の構築

長野県においては、これまで輸血療法部会が中心となり、血液製剤使用適正化の推進活動を継続してきた。これまでの活動により県内の多くの医療機関において輸血療法に関する教育を受ける機会が基本的に乏しく、結果的に輸血療法に関する知識や技術が施設間によって大きな

格差を生じていることが明らかとなった。また災害等発生時の危機管理体制については、ほとんどの医療機関でマニュアルの整備が実施されていないことも明らかとなった。さらに一般的な輸血療法マニュアルに至っても存在しない、内容が不十分、記載内容が現在の診療に即していないなどの問題があることも判明した。したがって、我々は長野県内における輸血療法全体の底上げの実施が急務であると判断し、長野県輸血療法部会として数年がかりで輸血に関わる教育活動や啓発運動を実施するとともに、全県で共有できる輸血マニュアルを制定し、さらに県内共通の災害時等緊急時の医療機関における輸血用血液製剤の確保に関するガイドラインの整備等を順次実施するとともに血液製剤使用の適正化に貢献してきた。

こうした活動は県内輸血療法全体の向上に着実な成果を挙げつつある一方で、輸血療法部会として1年間に開催できる教育集会も限りがあること、県内140近く存在する医療機関の規模はまちまちであり実際には各医療機関に即した輸血事情には格差があること、各医療機関からの積極性が得られなければ対話が一方方向になりがちであるなどの問題が解決すべき課題としてあげられた。したがって、各医療機関で必要とされる輸血療法を踏まえた上で、さらに各医療機関で実施できる項目、改善できる項目、求められる今後の課題、現在国内で一般的に実施されている血液製剤使用の適正化の方策との相違などをアドバイスすることを目的として、輸血療法部会構成員並びに県内の医療機関から有志を募り、血液製剤使用

の適正化および輸血教育・研究の推進を目的とした県内における外部評価組織を立ち上げることとした（資料1）

初代の構成メンバーは県内各医療機関、赤十字血液センターの多職種から成る19名で構成（資料2）され、この組織を「適正（Appropriate）かつ安全（Safe）な輸血療法（Transfusion）を実現するためには信州（Shinshu）における独自の訪問（Interview）と支援（Support）により手助けする必要がある」という理念を込めて、ASSISTワーキンググループと命名することとした。さらに、長野県内に存在する様々な医療機関の規模や地域性、また求められる輸血事情の相違等を加味した長野県独自の評価項目を考案した。

C. 長野県輸血療法部会による医療機関評価体制の実施

ASSISTワーキンググループの構成とともに、県内医療機関には活動案内（資料3）を配布するとともに、訪問希望の有無を確認した。県内医療機関から訪問希望があった際には長野県献血推進協議会輸血療法部会事務局が中心となり、訪問日時の調整を行うとともに事前質問票（資料4）を用いて訪問前の聞き取りを行った。

今年度、研究期間中には以下の3医療機関への訪問を実施した。

（1）訪問医療機関1

- 医療機関規模：300床以上（大規模）
- 訪問時間：2時間
- 評価者：6名（医師2名，看護師1名，検査技師3名）

※赤十字血液センター職員2名

- 医療機関対応者：8名（医師1名，看護師2名，検査技師4名，薬剤師1名）※輸血療法委員8名
- 訪問内容：輸血療法の概要説明，輸血管理部署の見学，院内輸血実施方法の実演ならびにその確認，ディカッション

（2）訪問医療機関2

- 医療機関規模：300床以上（大規模）
- 訪問時間：2時間
- 評価者：4名（医師1名，看護師0名，検査技師3名）
※赤十字血液センター職員1名
- 医療機関対応者：4名（医師1名，看護師2名，検査技師1名）※輸血療法委員3名
- 訪問内容：輸血関連インシデントおよび院内教育の概要説明，輸血管理部署の見学，ディカッション

（3）訪問医療機関3

- 医療機関規模：100～299床（中規模）
- 訪問時間：2時間
- 評価者：5名（医師2名，看護師1名，検査技師2名）
※赤十字血液センター職員1名
- 医療機関対応者：6名（医師1名，看護師2名，検査技師3名）※輸血療法委員6名
- 訪問内容：輸血療法に関連する外輸および実績の説明（インシデント，院内教育，血液製剤廃棄率，輸血管理料への取り組みなど），

輸血管理部署の見学，病棟見学，
ディカッション

D. 長野県輸血療法部会による医療機関評価結果および今後の展望

今回全く初めての取り組みであり，限られた準備期間であったが3医療機関への訪問を実施することが可能であった。有意義な訪問になるのか，不安な点もあったが実際に行ってみると予定時間を超過して多くの意見交換が実施されることもあった。

これまで長野県輸血療法部会の活動内容は一方向的な情報発信に偏りがちであったが，本研究の実施により各医療機関に合わせた具体的なアドバイスを実施することが可能であったと考えられる。また，普段情報を得ることができない各医療機関の輸血に関わるスタッフから直接意見を収集できるという貴重な場を持つことが可能であった。さらに，今回訪問対象となった医療機関においては，県内の他の医療機関にとっては手本となるような血液製剤使用適正化に向けた運用が実施されていることも多かった。訪問メンバーにとっても貴重な情報収集の場になるとともに，今後，各施設並びに長野県輸血療法部会における血液製剤使用適正化の推進活動にも大変有意義な成果が得られたと考えられる。

今回は県内でも比較的規模が大きい医療機関に限定した訪問とはなったが，今後はさらに小規模な医療機関も対象として更なる活動を継続したい。また，これまではなかなか得ることが困難で課題でもあった各医療機関からのフィードバック

を積極的に収集するとともに，長野県輸血療法部会全体の活動内容に反映し教育並びに研究へ展開していく予定である。

E. 研究発表

1. 論文

1. Kobayashi J, Yanagisawa R, Ono T, Tatsuzawa Y, Tokutake Y, Kubota N, Hidaka E, Sakashita K, Kojima S, Shimodaira S, Nakamura T. Administration of platelet concentrates suspended in bicarbonate Ringer's solution in children who had platelet transfusion reactions. *Vox Sang.* 2018 113:128-35.
2. Kojima S, Yanagisawa R, Tanaka M, Nakazawa Y, Shimodaira S. Comparison of administration of platelet concentrates suspended in M-sol or BRS-A for pediatric patients. *Transfusion.* 2018 58:2952-8.

2. 学会発表

1. 柳沢龍，中沢洋三，下平滋隆．院内調製洗浄血小板による副作用予防効果 - 小児科病棟からの報告．第66回日本輸血・細胞治療学会総会（2018年5月24－26日，栃木）
2. 小嶋俊介，竹村佳代，赤羽由貴，古川聖美，山中万次郎，紺野沙織，小林純，柳沢龍，下平滋隆．重炭酸リンゲル液とM-solによる洗浄血小板の臨床的有効性の比較検討．第66回日本輸血・細胞治療学会総会（2018年5月24－26日，栃木）

3. 立澤有香, 小林純, 小野貴子, 徳竹由美, 日高恵以子, 坂下一夫, 柳沢龍. 小児輸血で発症したアレルギー反応の後方視的検証. 第66回日本輸血・細胞治療学会総会 (2018年5月24-26日, 栃木)
4. 古川聖美, 小嶋俊介, 竹村佳代, 赤羽由貴, 山中万次郎, 紺野沙織, 柳沢龍, 下平滋隆. 輸血部における病棟使用FFPの融解業務導入による効果の検証. 第66回日本輸血・細胞治療学会総会 (2018年5月24-26日, 栃木)
5. 小林純, 立澤有香, 徳竹由美, 小野貴子, 久保田紀子, 日高恵以子, 中村友彦, 坂下一夫, 小嶋俊介, 柳沢龍, 下平滋隆. 小児における重炭酸リンゲル液を用いた置換血小板の安全性および有効性の検討. 第66回日本輸血・細胞治療学会総会 (2018年5月24-26日, 栃木)
6. 山中万次郎, 小嶋俊介, 竹村佳代, 紺野沙織, 柳沢龍. フローサイトメトリーによるCD34陽性細胞数測定において非特異反応を示した症例. 第146回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会 (2018年9月29日, 埼玉)
7. 小松政義, 小嶋俊介, 堀内香与, 大田智, 佐伯成規, 柳沢龍. 長野県輸血療法部会の活動. 第146回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会 (2018年9月29日, 埼玉)
8. 平林盛人, 新開豪, 大田智, 小池俊幸, 村上純子, 佐藤博行. 医薬情報担当者が輸血療法委員会へ参加することの効果 - 中規模医療機関の赤血球製剤廃棄率減少 -. 第42回日本血液事業学会 (2018年10月2-4日, 千葉)
9. 矢島あゆ美, 大久保匠, 島田泰行, 石尾千恵美, 百瀬克彦, 村田近文, 小池敏幸, 村上純子, 佐藤博行. 10代の献血者を確保するため固定施設で実施した広報活動. 第42回日本血液事業学会 (2018年10月2-4日, 千葉)
10. 峯村かおる, 井出ひろか, 美谷島愛美, 滝沢容子, 山口葉子, 弓本麻菜実, 内山美佳, 笹岡紀子, 北村潤子, 原田あす加, 丸山里美, 牧野剛久, 村上純子, 佐藤博行. 血小板単位不足解消に向けたカスタムメイド採血の試み. 第42回日本血液事業学会 (2018年10月2-4日, 千葉)
11. 雨宮真恵, 牛山加奈子, 布野由美, 若林さつき, 小池舞, 高木良美, 原田千代子, 百瀬克彦, 丸山里美, 村上純子, 佐藤博行. 10代の献血者をリピーターにするためのアプローチ. 第42回日本血液事業学会 (2018年10月2-4日, 千葉)
12. 関史行, 渡邊満, 五味高志, 樋口勇夫, 小池敏幸, 村上純子, 佐藤博行. 測温抵抗体温度計の断線補修が測定に与える影響について. 第42回日本血液事業学会 (2018年10月2-4日, 千葉)
13. 滝澤正見, 関史行, 渡邊満, 五味高志, 樋口勇夫, 小池敏幸, 村上純子, 佐藤博行. 長野県における新鮮凍結血漿輸送に伴う破損リスクの検証. 第42回日本血液事業学会 (2018年10月2-4日, 千葉)

(資料1)

ASSIST ワーキンググループ設置要領

(名 称)

- 1 本会は長野県献血推進協議会輸血療法部会 ASSIST ワーキンググループ(以下「ASSIST WG」という。)と称する。

(目 的)

- 2 ASSIST WG は、長野県内の輸血療法実施医療機関を対象に、訪問によるアドバイスやサポートを主軸として活動し、もって輸血療法実施医療機関の血液製剤使用適正化を推進することを目的とする。

(活 動)

- 3 ASSIST WG は、前項の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。
 - ア 輸血療法実施医療機関における現状の把握、課題の整理・検討及びアドバイス・サポートに関すること(施設訪問による活動を含む)
 - イ その他、ASSIST WG が必要と認める事業

(組 織)

- 4 ASSIST WG は、次に掲げる者が委員となって組織する。
 - ア 長野県献血推進協議会輸血療法部会に属する者
 - イ 同部会看護師専門委員会または認定輸血検査技師専門委員会に属する者
 - ウ その他、輸血療法部会長が必要と認める者

(座 長)

- 5 ASSIST WG に座長を置く。座長は、ASSIST WG 委員の互選により選出する。
 - (1) 座長は会務を総括し、ASSIST WG を代表する。
 - (2) 座長に事故あるときは、あらかじめ座長の指名する者が職務を務める。

(会 議)

- 6 ASSIST WG は、必要に応じて開催し、座長が会議の議長を務める。

(事務局)

- 7 ASSIST WG の事務局は、長野県健康福祉部薬事管理課及び長野県赤十字血液センターに置く。

(その他)

- 8 この要領に定めるもののほか、ASSIST WG に関して必要な事項は、座長が別に定める。

附 則 この要領は、平成30年11月6日から施行する。

(資料2)

長野県献血推進協議会 輸血療法部会 ASSISTワーキンググループ委員名簿

座長 小嶋 俊介 (信州大学医学部附属病院主任臨床検査技師)

職務代行

[平成30年11月6日現在]

所 属	氏 名	職 種
信州大学医学部附属病院	柳沢 龍	医師
長野県赤十字血液センター	佐藤 博行	医師
長野県赤十字血液センター	村上 純子	医師
伊那中央病院	白鳥 徹	医師
信州大学医学部附属病院	堀内 香与	看護師
厚生連 南長野医療センター 篠ノ井総合病院	鶴田 まゆみ	看護師
長野県立こども病院	村山 優子	看護師
厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター	中村 竜也	看護師
飯田市立病院	伊藤 真実	看護師
長野赤十字病院	滝沢 由起子	看護師
飯田市立病院	荒木 竜哉	臨床検査技師
信州大学医学部附属病院	小嶋 俊介	臨床検査技師
社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院	原 博明	臨床検査技師
まつもと医療センター	宮下 雅子	臨床検査技師
長野県赤十字血液センター	大田 智	臨床検査技師
厚生連 北アルプス医療センター あづみ病院	佐々木 朝海	臨床検査技師
社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院	小林 伶	臨床検査技師
伊那中央病院	飯島 達哉	臨床検査技師
長野市民病院	笠井 大助	臨床検査技師

(資料3)

長野県献血推進協議会 輸血療法部会 ASSISTワーキンググループ活動案内

輸血療法に携わる多職種のみぎさき

輸血療法について 意見交換しませんか？



日頃、輸血療法に携わる中で、
次のような疑問をかかえていませんか？

- 血液製剤の管理方法を確認したい
- 検査方法が本当に正しいのか疑問
- 輸血の実施手順に不安がある
- 輸血副反応の確認内容を再確認したい
- 記録の保管期間がわからない



『長野県 献血推進協議会 輸血療法部会』では、県内の輸血療法に携わっている多職種の方と意見交換しながら、患者さんにとって安全で適正な輸血療法を目指しています。

日頃の業務の中で疑問に感じていること、もう一度確認したいことなどがありましたら、**ぜひお声がけください！**

当部会のスタッフが、あなたの医療機関にお伺いして意見交換させていただきます。

短時間の講演会・勉強会も承ります。

輸血療法に関する医療安全対策のための研修としても活用ください。

料金はかかりません。



お問い合わせは・・・

『長野県 献血推進協議会 輸血療法部会 事務局』

長野県 健康福祉部 薬事管理課 TEL026-235-7157

長野県赤十字血液センター 学術・品質情報課 TEL026-214-8194



(資料4)

ASSIST 訪問 事前質問票

ASSIST 訪問 事前質問票 (1/5)

長野県献血推進協議会輸血療法部会 ASSIST WG

ASSIST 訪問へお申し込みいただき有り難うございます。

こちらの事前質問票は訪問を円滑かつ効果的に進めていくために貴院の状況、困っていること、訪問に期待すること等をお尋ねするシートとなります。ASSIST WG による訪問は、調査、査察、指導といったものではなく、貴院の輸血に関する悩みを一緒に解決することを目的としています。

以下の「質問 1～7」にご回答いただき、**訪問日の1週間前**までに事務局へご提出ください。

質問1. 貴院の施設状況についてご記入ください。

設問事項	ご回答
施設名	
回答者氏名	
回答者連絡先 (TEL)	
回答者連絡先 (E-mail)	
病床数	床
輸血用血液製剤管理部署	<input type="checkbox"/> 輸血部 (室) <input type="checkbox"/> 検査科 <input type="checkbox"/> 薬剤科 <input type="checkbox"/> その他 ()
アルブミン製剤管理部署	<input type="checkbox"/> 輸血部 (室) <input type="checkbox"/> 検査科 <input type="checkbox"/> 薬剤科 <input type="checkbox"/> その他 ()
輸血検査実施部署 (日勤帯)	<input type="checkbox"/> 輸血部 (室) <input type="checkbox"/> 検査科 <input type="checkbox"/> 外注 <input type="checkbox"/> その他 ()
輸血検査実施体制 (時間外)	<input type="checkbox"/> 臨床検査技師が常駐 (当直 or 夜勤)
	<input type="checkbox"/> 臨床検査技師が on call
	<input type="checkbox"/> 臨床検査技師以外 ()
	<input type="checkbox"/> 時間外に輸血を実施してしない
自己血輸血実施状況 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 貯血式自己血輸血
	<input type="checkbox"/> 回収式自己血輸血
	<input type="checkbox"/> 希釈式自己血輸血
	<input type="checkbox"/> 自己血輸血を実施してしない
輸血管理料取得状況	<input type="checkbox"/> 管理料 I <input type="checkbox"/> 管理料 II <input type="checkbox"/> 未取得
自己血管理加算	<input type="checkbox"/> 取得済み <input type="checkbox"/> 取得活動中 <input type="checkbox"/> 未取得
日本輸血・細胞治療学会 I&A 制度認定取得状況	<input type="checkbox"/> 取得済み <input type="checkbox"/> 取得活動中 <input type="checkbox"/> 未取得
ISO15189 認定取得状況	<input type="checkbox"/> 取得済み <input type="checkbox"/> 取得活動中 <input type="checkbox"/> 未取得
その他の輸血関連施設要件等 ()	<input type="checkbox"/> 取得済み <input type="checkbox"/> 取得活動中 <input type="checkbox"/> 未取得

ASSIST 訪問 事前質問票 (2/5)

長野県献血推進協議会輸血療法部会 ASSIST WG

質問2. 貴院で取り扱っている輸血用血液製剤についてチェック欄を選択し、1年間のおおよその輸血使用量をご記入ください。

(直近1年間での使用実績がない場合でも取り扱っている製剤は選択してください。)

チェック欄	製剤種	輸血量 (総単位数)
<input type="checkbox"/>	赤血球液 (RBC)	単位
<input type="checkbox"/>	新鮮凍結血漿 (FFP) ※1	単位
<input type="checkbox"/>	濃厚血小板 (PC)	単位
<input type="checkbox"/>	貯血式自己血 ※2	単位

※1 120mLを1単位として換算してください

※2 200mLを1単位として換算してください

質問3. **質問2**で選択していただいた各輸血用血液製剤について、輸血使用量の多い診療科名をご記入ください。なお、1つの製剤種につき最大でも3診療科までとしてください。

(専門病院の場合でもお手数ですが、診療科名をご記入ください。)

製剤種	主要診療科 (1つでも可、最大3つまで)		
赤血球液 (RBC)			
新鮮凍結血漿 (FFP)			
濃厚血小板 (PC)			
貯血式自己血			

質問4. 院内で実施している輸血検査を選択し、1年間のおおよその検査件数をご記入ください。

(外注で実施している検査に関しては記入不可となります。)

チェック欄	検査項目	検査量 (総件数)
<input type="checkbox"/>	血液型検査	件
<input type="checkbox"/>	不規則抗体スクリーニング	件
<input type="checkbox"/>	不規則抗体同定検査	件
<input type="checkbox"/>	交差適合試験	件

ASSIST 訪問 事前質問票 (3/5)

長野県献血推進協議会輸血療法部会 ASSIST WG

質問5. ASSIST 訪問で希望される項目についてチェック欄を選択してください。なお、訪問には時間の制限がありますので、全てのご希望にお応えできない場合があることをご承知おきください。訪問時にお応えできなかった項目に関しましては、メールや電話にて担当者よりご対応させていただくこともあります。

(各項目について具体的な相談内容があるようでしたら、**質問7**へご記入ください。)

チェック欄	番号	内容
<input type="checkbox"/>	①	輸血管理部署を訪問し、製剤保管管理についての相談
<input type="checkbox"/>	②	輸血管理部署を訪問し、適正使用についての相談
<input type="checkbox"/>	③	輸血管理部署を訪問し、輸血検査についての相談
<input type="checkbox"/>	④	病棟等を訪問し、同意説明等についての相談
<input type="checkbox"/>	⑤	病棟等を訪問し、血液製剤の取り扱いについての相談
<input type="checkbox"/>	⑥	病棟等を訪問し、輸血実施手順についての相談
<input type="checkbox"/>	⑦	病棟等を訪問し、輸血副反応の観察・対応についての相談
<input type="checkbox"/>	⑧	輸血療法に関連する院内マニュアルについての相談
<input type="checkbox"/>	⑨	輸血療法に関連する同意説明文書についての相談
<input type="checkbox"/>	⑩	輸血療法に関連するインシデントについての相談
<input type="checkbox"/>	⑪	自己血輸血についての相談
<input type="checkbox"/>	⑫	緊急時における輸血対応についての相談
<input type="checkbox"/>	⑬	災害時における輸血対応についての相談
<input type="checkbox"/>	⑭	輸血前後の感染症検査についての相談
<input type="checkbox"/>	⑮	医薬品副作用被害救済制度・生物由来製品感染等被害救済制度についての相談
<input type="checkbox"/>	⑯	院内輸血教育についての相談
<input type="checkbox"/>	⑰	電子カルテシステム（オーダーリング）についての相談
<input type="checkbox"/>	⑱	輸血療法委員会についての相談
<input type="checkbox"/>	⑲	輸血管理料、各種施設認定等についての相談
<input type="checkbox"/>	⑳	その他 ※ 質問7 へご記入ください。

ASSIST 訪問 事前質問票 (4/5)

長野県献血推進協議会輸血療法部会 ASSIST WG

質問6. **質問5**で選択していただいた項目について、訪問時にご対応いただける予定の方をご記入ください。なお、当日変更になっても構いません。

(10名以上の方にご対応いただける場合は、主たる対応者についてのみご記入ください。)

職種	職位・役職等	ご対応いただく番号

※ 可能な限り、輸血療法委員会委員長、輸血責任医にしましては、ご参加いただきたく存じます。

※ また、複数職種の方にご参加いただけますようお願い致します。

ASSIST 訪問 事前質問票 (5/5)

長野県献血推進協議会輸血療法部会 ASSIST WG

- 質問7. その他に日常業務における困りごとや悩みごとについてご自由にご記載ください。輸血に関連することでしたら、どのような相談でも構いませんのでお気軽にご記入ください。なお、個人情報保護に配慮していただきつつ、具体的な相談内容をお書きいただけますと幸いです。(枠内に収まらない場合は別紙を付けていただいても構いません。)

当日にご相談いただいても構いませんが、滞りなく訪問が進められますよう事前質問票のご記入へご協力を宜しくお願い致します。

厚生労働省医薬食品局
平成30年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業
研究報告書

研究課題

輸血療法部会看護師専門委員会活動報告

委員会名 長野県献血推進協議会輸血療法部会
分担研究者 堀内 香与 看護師専門委員会委員長
信州大学医学部附属病院 看護部
主任研究者 柳沢 龍 長野県献血推進協議会輸血療法部会長

A. はじめに

長野県においては、長野県献血推進協議会輸血療法部会が中心となり、県内の輸血療法の推進を継続してきた。平成 26 年度から長野県献血推進協議会看護師専門委員会（以下「看護師専門委員会」という）は、長野県における安全かつ適正な輸血療法の実践及びその標準化を目標に活動しており、啓発活動の一環として、認定輸血検査技師専門委員会のメンバーまた、公益法人長野県看護協会の協力を得て、連携をとりながら、取り組んできた。

今年度は、輸血療法における地域包括ケアに向けた看護師教育の実践、継続を推進することを目標に掲げ、一昨年、作成した「長野県輸血療法マニュアル」を県内統一のマニュアルとして普及させるため、啓発活動を進めていくことである。

今年度の看護師専門委員会の活動として、長野県の輸血療法における輸血教育の実践について述べる。

B. 活動計画

輸血療法マニュアルを活用し、ワーキング作業チーム・学術支援チームで連携し、輸血療法における輸血教育の継続・推進をする。

C.平成 30 年度事業報告

平成 30 年度は、「長野県輸血療法マニュアル」を活用し、小規模医療機関の看護師が直ぐに活用し、実践に向けた最新の知識、基礎技術の習得を行うため、輸血療法の輸血教育が必要と考えた。今年度、看護師専門委員会では、ワーキング作業チーム・学術支援チームが連携して活動することを目標に平成 30 年度目標管理シート（資料 1）に沿って活動を開始した。

今回、長野県看護協会北信支部において看護師専門委員会の委員 2 名が平成 30 年 7 月 23 日、長野赤十字病院 第一研修ホールにおいて「安全な輸血を見直そう」として講演を行った。看護師対象の研修

会であり、30名が参加した。研修会の内容については、1. 認定輸血検査技師（長野県赤十字血液センター学術・品質情報課長）の立場から「血液製剤の取り扱い」2. 看護師専門委員会 委員（学会認定・臨床輸血看護師）の立場から「輸血の基礎と歴史」3. 看護師専門委員会 委員（学会認定・臨床輸血看護師、アフレーションスナース）の立場から「輸血の有害事象について」「輸血過誤及び事例」であった。初めての試みであったが、参加者より大変良かったとの意見があった。

今後は、長野県の4地区（東信、北信、中信、南信）において各委員が地域の看護職等に対して、このような機会を設けていくことができれば、きめ細やかな活動ができ、輸血療法に関する質の高い支援ができると考える。そして、長野県内における安全かつ適正な血療法の実践及びその標準化に繋がっていくと考える。今後も看護協会の協力を得ながら、ネットワークを拡げ、各委員がその地域にどのような役割を果たすことができるのか方向性を見出していきたい。

平成30年9月8日に看護師専門委員会作業ワーキングが信州大学医学部附属病院研修室で開催され、看護師専門委員会委員、事務局の計20名が出席した。そこでは、学術支援チーム、ワーキング作業チームの各リーダーから活動報告がされ、「長野県 輸血療法マニュアル」を活用し、輸血教育の継続、また、「長野県 輸血療法マニュアル実施チェックリスト(案)」「長野県輸血療法マニュアル副反応、バイタルサイン表(案)」の作成に取り組むことを確認、審議され、原案通り承認された。

平成30年度は、学術支援チームのリーダー・サブリーダーを中心にしながら、認定輸血検査技師専門委員会学術ワーキンググループの委員の協力を得て、第4回サマーセミナーを平成30年9月8日に信州大学医学部附属病院大会議室で開催した。（資料2）今年度は、4回目の開催であり、輸血に関わる医療職を対象とした輸血教育セミナー安全な輸血療法をめざして～基礎から学ぶ～を開催した。看護師、検査技師、医師、薬剤師、医療安全管理者なども含め総勢118名（セミナー講師、事務局、看護師専門委員会も含む）が参加した。

セミナー内容については、1. 学会認定医（輸血療法部会職務代行）の立場から「市中病院における急性期の輸血療法」危機的出血への対応や、輸液と輸血、輸血療法に伴う電解質異常や凝固障害など2. 認定輸血検査技師（長野県赤十字血液センター 学術・品質情報課長）の立場から「血液製剤の取り扱いと管理」3. 輸血に関する看護師（看護師専門委員会 中南信地区チームリーダー、東北信地区チームリーダー）の立場から「今日から実践、活用できる輸血療法の実際」講演と演習（DVD視聴）4. デイスカッションであった。今回は、麻酔科部長であり、学会認定医の立場から、直ぐに臨床現場で生かすための知識や技術を丁寧に理解しやすく、動画も交えての講演内容だった。また、「長野県輸血療法マニュアル」の活用方法については、輸血副反応の観察や対応を中心に、できるだけわかりやすく示すことが重要と考え、講演とともに、DVDを作成し、視聴も行った。

第4回サマーセミナー終了後に輸血療法担当看護師を対象として実施したサマーセミナーのアンケート結果より、就業年数別の参加者内訳は、看護師就業年数10年目以上が65%を占めていた。さらに、医療機関病床数別では、病床数300床以上が47%、次に100～299床が29%、99床以下が24%という結果であった。血液製剤の取り扱い経験年数については、5～10年未満が27%、10～20年未満が29%であり、5年目以下17%であった。今年度の学術支援チームの目標であった、血液製剤の取り扱い10年目以下の参加率を上げることに関しては、各委員の働きかけもあり、8名から18名と大幅な参加人数となった。その中で実際に実施した血液製剤種類の内訳は、赤血球製剤94%、血漿製剤67%、血小板製剤67%、自己血58%、アルブミン83%（複数回答含む）であった。「長野県輸血療法マニュアル」を知っている73%、知らない27%を遥かに上回り、徐々に「長野県輸血療法マニュアル」が周知、活用されている現状を把握する結果となった。今後は、実技演習（DVD視聴を含む）希望が86%、出前授業（講演・実技演習）希望が60%あることから、安全な輸血体制を確立するために、輸血療法を実践する医療職対象に血液製剤の適正使用を学ぶ機会を設けることが必要である。今後も輸血教育が継続的に行われるために、来年度は、小規模医療機関への働きかけや少人数での研修会のあり方を検討、活動をしていく。

平成30年度9月20日 第1回 長野県献血推進協議会輸血療法が長野赤十字血液センター会議室で開催され、看護師専

門委員会活動報告、サマーセミナー集計・結果、議事録について報告を行った。

平成30年12月9日、長野県赤十字血液センター会議室において、「輸血副反応とその対応」として看護師専門委員会研修会を開催した。セミナー内容としては、長野県赤十字血液センター副センター長の立場から村上純子先生の講演であった。看護師専門委員だけでなく、県内、外で輸血に関する看護師（内訳は学会認定・自己血輸血看護師6名、臨床輸血看護師13名、アフェレーシスナース4名；複数取得者を含む）23名が参加した。委員より、「院内で輸血療法の指導ならびに支援をしている。今まで以上に、専門性の知識を学びたい。また、輸血副反応17項目は、知識として知っている。しかし、目の前で患者がそのような症状が起こった場合に、医師に的確かつ迅速に報告、早期対応ができているか。TRALI, TACO, 重篤なアレルギーの事例を通してその観察と対応について解説をして欲しい」また、「今年度の認定輸血検査技師専門委員会の活動にもあった「輸血関連情報カード」が発行されることとなれば、院内で「輸血関連情報カード」を患者から手渡され、委員として、院内の皆さんへ安全のための説明ができ、積極的に役割を果たしていきたい」との意見があり、そのような内容を中心とした講演であった。参加者からは、問題解決の糸口となったという意見が多く、積極的に学ぶ機会となり、実際の事例を通して貴重な体験となり、充実した研修会となった。今回、初めて、看護師専門委員会と輸血に関する看護師が合同で研修する機会と

なり、メンバー内でネットワーク作りが欲しいとの意見が多数聞かれ、看護師専門委員会として早急にネットワーク体制を構築し、県内外での情報交換の場として活用していければと考える。

昨年度と同様に委員それぞれが輸血に関する看護師として率先して学会発表を行った。このように、委員が輸血に関する看護師を取得し、専門性を高めながら、院内教育は、もちろん、委員として活動を広げ活躍している。

今後さらに看護師専門委員会としても積極的な支援に取り組みたい。

平成31年2月18日に平成30年度目標管理シート、学術支援チーム、ワーキング作業チームの活動報告結果については、看護師専門委員会でメール審議の上、承認された。

安全な輸血療法の実践を支援するための「長野県 輸血療法マニュアル 実施チェックリスト(案)」「長野県 輸血療法マニュアル副反応、バイタルサイン表(案)」の作成は、活動を継続し、31年度末には完成目標としたい。

平成31年3月2日に第2回 長野県献血推進協議会輸血療法部会が長野市生涯学習センター3階会議室で開催され、平成30年度の目標管理シートを基に看護師専門委員会の活動報告を行い、審議の上、承認された。輸血療法部会では、輸血関連カードの活用について意見が出され、看護師専門委員会としても、患者がカード携帯して来院した場合には、速やかに検査科若しくは輸血部へ提出し、患者の情報共有に努めこと、また、現場の看護師等に周知を行い、輸血療法の実施には、

十分な観察を行い、輸血副反応を見逃さず、実施していくことが重要であると考える。

また、平成31年3月2日に平成30年度 長野県における輸血療法に係る検討会が長野市生涯学習センター4階 大会議室で開催され、看護師専門委員会として平成26年度から平成30年度4年間の活動報告を行なった。

D. まとめ

平成31年度は、輸血療法における地域包括ケアに向けた看護教育の実践、継続を推進することを目標に、ワーキング作業チーム、学術支援チームと連携し、「長野県輸血療法マニュアル」を活用し、各地区で委員が周知・啓発活動を行い、県内の輸血療法に関わる実践の標準化を図りたい。

さらに、ASSIST ワーキンググループの一員として看護師専門委員会が活動し、地域で学びながら、他職種と協力、連携し、輸血医療レベルの底上げに貢献していきたい。

目標管理シート

委員会名 長野県献血推進協議会輸血療法部会看護師専門委員会

平成30年度 輸血療法における地域包括ケアに向けた看護師教育 実践、継続を推進する。

目標達成のための指標 (何年・どの月まで)	目標達成のための指標	達成の根拠を示す資料	月	年間スケジュール(いつ)					委員会活動内容	今後の課題	年間スケジュール(いつ)					今年度の評価	今後の課題
			4月	5月	6月	7月	8月	9月		10月	11月	12月	1月	2月	3月		
目標達成のための指標 (何年・どの月まで)	目標達成のための指標	達成の根拠を示す資料	月	年間スケジュール(いつ)					委員会活動内容	今後の課題	年間スケジュール(いつ)					今年度の評価	今後の課題
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	今年度の評価	今後の課題				
計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】	計画【実績で示す】
委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う	委員会で意見集約、検討を行う

看護師専門委員会のこれまでの活動成果により、県内輸血療法全体の底上げが著明に達成されていると認められ、県内での輸血療法に携わっている医療者として委員会の活動が良き道徳となつていくことが伺えます。新たな目標を常に達成していくことは難しい事でもあるかと思われ、長期的に活動が継続され、結果として人材育成が図られていくよう、メンバーを配分を行いながら引き続きご尽力いただければと思います。

①輸血療法・マニュアル実務チェックリスト
 ②輸血療法・マニュアル反応、バイタルサイン
 ③輸血療法・マニュアル輸血の準備
 ④輸血療法・マニュアル輸血の輸送
 ⑤輸血療法・マニュアル輸血の輸注
 ⑥輸血療法・マニュアル輸血の観察
 ⑦輸血療法・マニュアル輸血の終了
 ⑧輸血療法・マニュアル輸血の廃棄
 ⑨輸血療法・マニュアル輸血のトラブルシューティング
 ⑩輸血療法・マニュアル輸血の教育

各々がチームが連携をとり、1人1人が「プロフェッショナル」の役割を担い、輸血療法を学ぶ機会とする。

看護師専門委員会のワーキンググループにおいて内容を検討し、その後はメンバーを配分しながら作成する。

本年度、小規模医療機関において活用できる内容として再考、検討を重ね、取り組む方向。

今年度は、各々がチームとして連携を取り、輸血療法を学ぶ機会とする。

「長野県輸血療法・マニュアル」を活用し、県内の小規模医療機関の活用を促進し、その後はメンバーを配分しながら作成する。

今年度は、各々がチームとして連携を取り、輸血療法を学ぶ機会とする。

今年度は、各々がチームとして連携を取り、輸血療法を学ぶ機会とする。

今年度は、各々がチームとして連携を取り、輸血療法を学ぶ機会とする。

今年度は、各々がチームとして連携を取り、輸血療法を学ぶ機会とする。

今年度は、各々がチームとして連携を取り、輸血療法を学ぶ機会とする。

(資料2)

輸血療法に関わる医療職を対象とした第4回サマーセミナー

安全な輸血療法をめざして ～ 基礎から学ぶ ～

県内の輸血療法を担当している医療職の質的向上を図るため、輸血の安全性と医療職それぞれの役割について学ぶことを目的とする。

- 1 主催 長野県献血推進協議会輸血療法部会
- 2 共催 (日本輸血・細胞治療学会 関東甲信越支部会に依頼中)
- 3 後援 (公益社団法人長野県看護協会、一般社団法人長野県臨床検査技師会に依頼中)
- 4 日時 平成30年9月8日(土) 13:30～16:30
- 5 場所 信州大学医学部附属病院4階 大会議室 (松本市旭3-1-1)
- 6 対象 輸血療法実施医療機関の医療職等(医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士等)
- 7 参加費 1,000円
- 8 日程
 - (1) 受付(13:00～13:30)
 - (2) 開会(13:30)
 - (3) 講演(13:35～15:30)
 - ①「市中病院における急性期の輸血療法」(13:35～14:35)
伊那中央病院 麻酔科部長 白鳥徹 先生
 - ②「血液製剤の取り扱いと管理」(14:50～15:30)
長野県赤十字血液センター 学術・品質情報課長 大田智 先生
 - (4) 講演、実技演習中心に(15:30～16:10)
「今日から実践、活用できる輸血療法の実際」
長野県献血推進協議会輸血療法部会 看護師専門委員会
中南信地区チームリーダー 村山優子 委員
東北信地区チームリーダー 中村竜也 委員 他、看護師専門委員会学術支援チーム
 - (5) ディスカッション(16:10～16:30)
 - (6) 閉会(16:30)

厚生労働省医薬食品局
平成30年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業
研究報告書

研究課題

認定輸血検査技師専門委員会活動報告

	委員会名	長野県献血推進協議会輸血療法部会
分担研究者	荒木 竜哉	認定輸血検査技師専門委員会委員長 飯田市立病院
	小嶋 俊介	認定輸血検査技師専門委員会職務代行 信州大学医学部附属病院 輸血部
主任研究者	柳沢 龍	長野県献血推進協議会輸血療法部会長

A. 経緯

長野県では、献血制度の普及を図るとともに献血制度の適正な運営を確保するため、「長野県献血推進協議会（昭和 39 年設置 会長：長野県知事）」を設置しているが、平成 23 年 2 月にこの協議会の中に「輸血療法部会」（事務局：長野県健康福祉部薬事管理課、長野県赤十字血液センター）を発足した。さらに、平成 27 年度には長野県献血推進協議会輸血療法部会認定輸血検査技師専門委員会（以下「認定輸血検査技師専門委員会」という）を設置し、県内の輸血検査技術の向上をはかるとともに、医師や看護師との連携を深め、安全な輸血療法の推進を目的とした。

B. 活動内容

1. 認定輸血検査技師専門委員会

平成 30 年 9 月 8 日に認定輸血検査技師

専門委員会が信州大学医学部附属病院外来診療棟 4F 研修室にて開催され、委員 17 名（うち認定輸血検査技師 13 名）、事務局 1 名及びオブザーバーとして長野県赤十字血液センター 2 名の計 20 名が出席した。委員会では、小規模医療機関を対象とした輸血検査実習について議論し、他職種も参加可能な研修会であり、今後も継続していくこととなった。さらに、輸血関連情報カードについて議論し、県内統一運用を検討することとなった。まずは、ニーズを収集するためにアンケート調査を実施することとなった。

C. まとめ

今年度は委員会としての活動だけでなく ASSIST ワーキングにも精力的に活動を行った。引き続き、県内の輸血検査の水準を向上できるように尽力する必要がある。